

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

コロナウィルスの影響で北米西海岸からアジア向けのコンテナ船においては、遅延や予約した船腹のキャンセルが増えています。

一部船社情報によると、すでに70隻を超えるアジア発の船がキャンセルされているそうです。北米西海岸出しの本船はアジア発の船の帰り荷がほとんどであるため、アジア発の船のキャンセルが多くなると、北米西海岸出しの船腹・空コンテナの供給に大きな影響が出ると考えられ、実際 PNW では影響が出始めています。中国発の本船がキャンセルになりシアトルの一部のターミナルでは本船が来ないため閉鎖する日が出ています。PNW は通常中西部から回送された空コンテナを輸出用コンテナとして活用していますが、中西部向けの輸入が減少している影響で PNW での空コンテナ供給の不安も聞かれるようになっていきます。

また通常よりも北米西海岸出しのサービス少なくなっていることから、運行を続けているサービスに需要が集中し船腹タイトになっているため、実施予定日は船社により異なりますが、3月からの北米西海岸出しアジア向けのサービスに対し GRI（海上運賃一斉値上げ）の通知が出されています。GRI の動向には引き続き注視が必要です。

ビートパルプ

【米国】

前号でお伝えの通り 2019 年産のビートは、秋口からの悪天候の影響で、生育不良や収穫作業を断念する圃場が多く発生しました。これらの減少分をビートパルプの発生量で換算すると、例年に比べ生産量は約 13 万トン減少するとも言われております。

この生産量減少により、すでに3工場でビートの製造を終えています。全体的に見ても今年は昨年よりも1-2か月早いペースで各工場製造を終える予定で、4月下旬にはすべての工場で製造を終える見込みとなっています。

アルファルファ

ワシントン州

ワシントン州では、2019年産の上級品の発生が限定的で供給力が限られています。当地では降雪の影響もあり、在庫品への水濡れ等のダメージも発生しており、供給力が限られている中、在庫の更なる欠減が心配されています。

オレゴン州

オレゴン州では、産地情勢に大きな変化はありません。荷動きも相場も安定的です。クラマスフォールズでは、冬季の降雪が少なく一部の生産者では 2020 年産の栽培に向け除草作業を開始しています。

カリフォルニア州

南部のインペリアルバレーでは最高気温が 25℃程度の気候が続いており、生産スケジュールの早い生産者は 2020 年産の 1 番刈の収穫を開始しています。ベーリングされたアルファルファも見られており、今後収穫が本格的化します。他方でこの時期収穫されたアルファルファの多くはまだ水分が不安定なため、主に米国内需向けに出荷され輸出向けは限定的です。

中国は旧正月前に十分に在庫を持っておらず、現在も在庫水準は低いと言われており、アルファルファに対する需要は強いようです。インペリアルバレーでは旧穀である 2019 産アルファルファの在庫（特にプレミアム品）が少ないため、輸出向けの新穀発生とともに旺盛な買い付けが開始されることが予想されます。



（インペリアルバレー産 1 番刈アルファルファ：3 月上旬撮影）

米国産チモシー

農林水産省植物防疫所発表の 2019 年 1-12 月までに日本に輸入された米国産チモシーの数量は前年比およそ 50,000 トン増の 349,665 トンとなっています。これは年始から余剰感があつた 2018 年産低級品の値下げが行われたこと、2019 年産が豊作となり全体的に大きく価格が下がったことで日本での需要が増えたと考察しています。

在庫については 2019 年産の上級品については多くが成約済みで、米国産チモシーに対する需要は堅調ですが、前述の通り 2019 年産は価格が総じて軟化したため、生産農家は取引価格に満足しておらず、すでにチモシーから収益性の高い他の換金作物への転作が始まっており、2020 年産のチモシーの作付面積は減少すると予測されています。

米国産チモシー	1-12月計	前年対比
2013年	368,805トン	N/A
2014年	282,504トン	76.6%
2015年	279,878トン	99.1%
2016年	322,916トン	115.4%
2017年	333,354トン	103.2%
2018年	297,968トン	89.4%
2019年	349,665トン	117.3%

(出典：植物検疫統計データ 米国産チモシー年別輸入数量)

スーダングラス

2月15日付のエーカーレージレポートによると、早播きスーダンの競合作物となるデュラム小麦の作付面積は昨年同期比2,337エーカー多い9,660エーカーとなっていますが、デュラム小麦の在庫率は多く、相場も低調なため輪作の一環として植えられている面積が増えたという見方が多く2020年産のスーダンの作付面積には大きな影響はなさそうです。スーダン種子価格は昨年より下がっていますが、生産者は昨年のスーダン価格に満足しておらず、2020年産への作付け意欲は高くないため、時期尚早ではありますが、2020年産は昨年規模の作付面積になるのではといわれています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

2月15日付のエーカーレージレポートによりますと、クレイングラスの作付面積は前年比1,992エーカー増の22,205エーカーとなっています。スーダンと異なり、ここ数年相場が安定していたため生産者の作付け意欲は強いものとなっています。順調に生育すれば、新穀の収穫作業は4月末から5月上旬から開始される見込みです。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

2月11日にUSDAから2020年産フェスキューとライグラスの作付見込面積が発表になりました。今年のアニュアル種のライグラスは昨年比9,000エーカー少ない113,000エーカー、ペレニアル種は昨年同様の60,000エーカーとなっています。フェスキューは昨年比7,000エーカー多い156,000エーカーとなる見込みです。

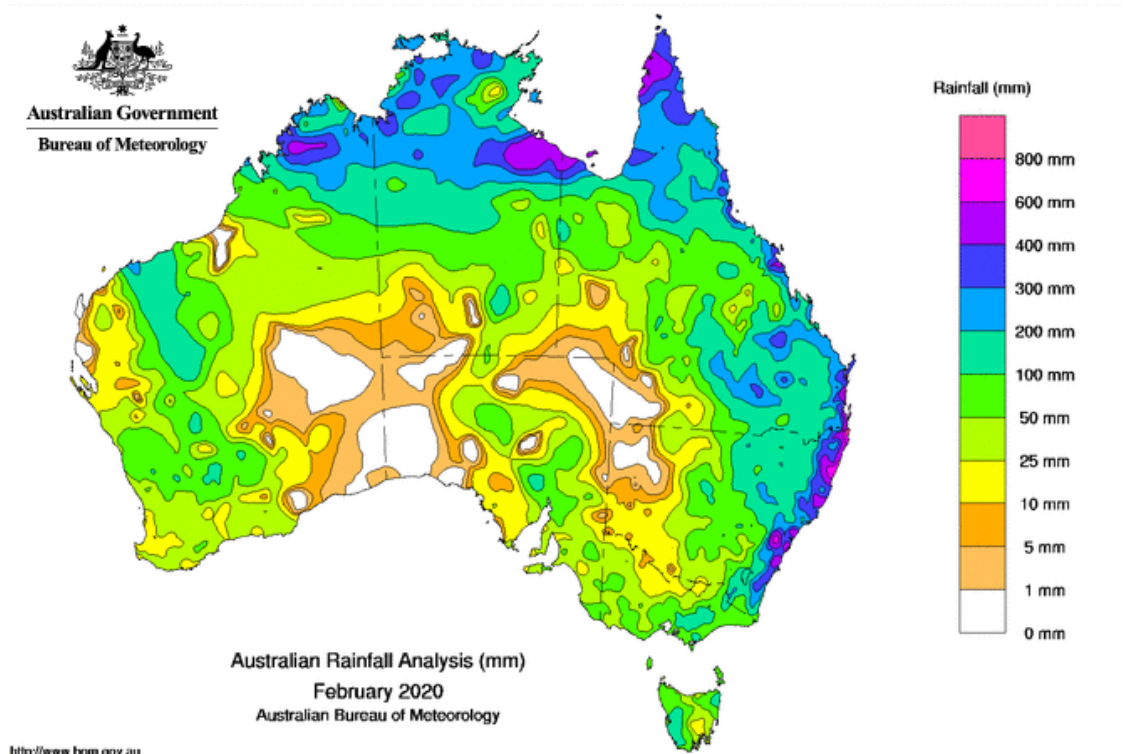
なお、ストローは種取後の副産物でありストローそのものの相場が悪いとそのまま圃場に鋤き込み生産調整されることがあるので、作付面積＝輸出用ストローの発生量とならないことは留意が必要です。

豪州産オーツハイ/ウィートストロー

豪州オーツハイとストローの需要は非常に強く、サプライヤーによると、3月は今年の

中でオーダー数が一番多い状況で工場もフル稼働のようです。

自然火災の影響を受けていた東部州は2月上旬よりまとまった降雨あり自然火災が終息しました。この降雨はタイミングが良く放牧草の生育が進み、国内需要の逼迫感は緩和され始めています。



(2020年2月の豪州における降水量(オーストラリア気象局HP より引用)

豪州コンテナ船情勢

豪州航路でもコロナウィルスの影響が出始めています。具体的には、乗務員へのコロナウィルス対策のため中国豪州間の本船では中国出航から14日以内に豪州の港へ到着しないように本船の航海スピードを通常より遅らせ運行しています。この影響で予定していた日程に豪州から出港することができず、予約していた中国から日本向けへのフィーダー船の接続に間に合わなくなり一部の貨物で遅延が発生しています。また中国発の輸出貨物の減少で本船運行が取りやめになっているサービスもあり、北米同様、継続運行している本船スペースに需要が集まり、ブッキングが取りづらい状況にもなっています。

空コンテナについては現状まだ十分に供給されていますが、豪州への輸入が低下し続けた場合、将来的に問題になっていく可能性があります。また今回のコロナウィルスによる船会社への多大な影響により、一部の損失を取り戻すために船運賃値上げの可能性があります、今後の船会社の動向に注視が必要です。

以上